

科目名	総合演習Ⅲ A					単位	2.0
担当教員	井上 薫						
授業形態	演習	開講期間	前期	配当年次	4	授業番号	3256

●授業のテーマ

子どもと家族への支援について考える(2-1)展開

●到達目標

研究計画を作成し、研究を進められるようになる。

●学習内容(授業概要)

3年次から準備してきた研究テーマについて、総合的・包括的・現実的な検討を加え、ひとりひとりが報告書にまとめる作業を行う。最終学年のゼミであるので、大学生生活の総括として取り組むことを期待している。ただ単に、先行研究を紹介するのではなく、それぞれの実践またはオリジナルな視点をぜひ盛り込んでほしい。発表資料の作成方法、発表の仕方、討論の仕方、研究報告書の作成方法などについても指導を行っていく。

なお、3年次に引き続き、児童福祉臨床(ケアワーク、相談援助活動など)についてもグループワーク等の方法により体験的に出会えるようにしていきたい。

参加者の意欲、努力や工夫のひとつひとつが、それぞれの個人的な資源(能力や強さ)として実を結ぶことを願っている。

●学習内容(授業計画)

1. 研究報告の方法についてオリエンテーション
2. 研究の構想
3. グループワークの企画
4. グループワークの実施(1)社会的養護(介入)
5. グループワークの実施(2)社会的養護(見立て)
6. グループワークの実施(3)社会的養護(計画策定)
7. グループワークの実施(4)社会的養護(自立対策)
8. グループワークの実施(5)心理学的支援
9. プレゼンテーション(1)心理学的研究
10. プレゼンテーション(2)児童家庭福祉制度
11. プレゼンテーション(3)児童家庭相談
12. プレゼンテーション(4)社会的養護
13. プレゼンテーション(5)保育、地域子育て支援
14. プレゼンテーション(6)障がいを持つ子ども
15. 総括(ふりかえり)

●準備学習・事後学習の内容

準備学習として、テキストおよび配布資料の該当の部分を読んで要約しておくこと。事後学習として、授業時に示された課題についてまとめておくこと。

●成績評価方法・基準

平常点（発表、討論、グループワークへの参加）（40%）および研究報告書（60%）の内容により評価する。

●テキスト（必携）

なし

●参考文献／その他

特になし。

●履修上の注意

授業に欠席・遅刻しないこと。

\* 研究報告書では、適切な引用法を心がけること。本やインターネットなどの資料の丸写しは禁止。